

行波の神舞と ひろしま神楽



～魂の鼓動がきこえる～



2013.4.21 (日)

開演/14:00 開場/13:30

周東パストラルホール

演目

行波の神舞／荒霊武鎮

東山神楽団／土蜘蛛、八岐大蛇

※都合により変更になる場合がございます。

- 入 場 料 金／無料 ※整理券が必要です。
- 主 催／岩国市周東文化会館、岩国市教育委員会
- 後 援／(株)中国新聞社、RCC、周東文化協会、玖珂町文化協会
- 問 い 合 わ せ／周東パストラルホール
岩国市周東町用田137-8 TEL.0827-84-1400
- ホームページ／<http://www.pastoralhall.org>
- 整理券設置場所／パストラルホール、岩国市教育委員会 周東支所・玖珂支所

PASTORAL HALL

神舞と神楽 ～魂の鼓動がきこえる～



■荒霊武鎮

俗に「荒神の舞」とも言われ、動作の激しい舞であるが、神楽歌に「心鎮めて舞をたまわる」とあるように、動と静を合わせ持つ舞である。四神が四方（東西南北）を祓い、次に神種（もどき）が天下泰平、五穀豊穡、子孫繁栄を舞い、続いて霊剣および敷太刀が二刀で悪霊祓いをする。



■八岐大蛇

出雲の国に暮らす足名椎（あしなづち）・手名椎（てなづち）老夫婦には八人の娘がいました。しかし毎年一人また一人と大蛇に飲み取られ、七人まで娘を失いました。そしていよいよ八人目の娘が飲み取られる季節となり、老夫婦と八人目の娘・奇稻田姫（くしいなだひめ）は嘆き悲しんでいました。そこへ高天原（たかまがはら）から舞い降りた須佐之男命（すさのおのみこと）が通りかかり、その訳を聞きます。

命は、大蛇退治を決め、老夫婦に八塩折（やしおり）の毒酒を造らせ酒を入れた樽の後に姫を立たせます。酔いの回るほどに暴れ狂い、次第に酔い伏してしまいま

す。これを待ち構えていた命は、壮絶な戦いの末、大蛇を退治します。

大蛇の腹を切り裂くと、一本の刀が出てきます。これを天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ）と名付け、天照大神（あまてらすおおみかみ）に捧げます。そしてめでたく奇稻田姫を妻とし、平和で豊かな出雲の里で暮らしていくという物語です。



■土蜘蛛

大和の国を一望する葛城山に棲み付き、天下を攪乱（かくらん）しようとする土蜘蛛の精魂が、都の守・源頼光（みなもとのらいこう）へ忍び寄ります。時に頼光は病に伏し、頼光の美しい侍女・胡蝶（こちょう）が典藥（てんやく）の守から薬を持ち帰るところを、土蜘蛛の精魂は襲います。そして、胡蝶になりますと、薬と偽って毒薬を飲ませます。しかし、頼光に正体を見破られ、伝家の宝刀「膝丸（ひざまる）」で一太刀浴びた土蜘蛛の精魂は葛城山へと逃げ帰ります。

頼光は、我が身を救った宝刀「膝丸」を「蜘蛛切丸（くもきりまる）」と改め、四天王にこの刀を授け土蜘蛛退治を命じます。四天王は、葛城山へ向かい精魂の妖術に立ち向かい、壮絶な戦いの果てに成敗するという物語です。

岩国行波の神舞について

この神楽はもともと社家神楽で、悪疫退散、火難祓い、五穀豊穡を祈願し奉納したのが始まりとされ、明治4年に降これらを地区の人々が習得。今日に至るまで厳格にその形を守り伝えています。継承後は観衆の目を意識し舞い方を改変したり、華美に走ったりすることなく、伝統をよく伝えられていると言われ、昭和46年2月岩国市指定に続き、昭和48年3月に県指定の無形民俗文化財となり、昭和54年2月、国の重要無形民俗文化財に指定されました。7年目ごとに行う願舞は12座の舞で構成され、すべての舞を舞い終わるまで15時間にも及びます。動きは順・逆に繰り返す太夫舞（巫女舞）を基調にして、静と動が巧みに組み合わせられ優美さの中に古風がよく残る点が特徴とされています。

東山神楽団について

東山神楽団は、北広島町（旧千代田町）にある神楽団です。昭和34年に地域の若者達により結成しました。当時は石井谷八幡神社での練習ができず、団員の家の蔵の中で練習をしていました。団員の減少などで活動は中断され、昭和48年に再び新しい人たちによって活動が再開されました。当時は、大江山・戻り橋・紅葉狩り等が主な演目でした。現在、団員数28名で活動しています。まだまだ未熟ですが「郷土芸能の伝承」と「感動ある神楽」を目指し、東山らしい神楽を追求したいと思っています。ここまで育てて頂いた地域の方、神楽ファン、先輩方に感謝すると共に、団員一同初心に返り努力していきますので、何卒温かいご指導、ご支援宜しくお願い致します。